

## 8. インドの貿易と直接投資の動向

### 第1章 インドの貿易

インドの貿易収支は恒常的な赤字である。しかも、近年は輸入の増加が輸出の増加を上回り貿易赤字額が急拡大し2008年は過去最高額となる見通しである。貿易赤字の増加は、コンピュータ&情報サービス収支や労働者送金の受取超過を上回るので、経常収支も赤字となっている。

インドの貿易の特徴は、上位品目が原材料を輸入し国内で加工し輸出する加工貿易型の「原油 > 石油製品」、「研磨していないダイヤモンド > 加工済ダイヤモンド」、「金」、「ジュエリー」で占めていること。特に、近年は原油の輸入と精製後の石油製品輸出が急増している。

加工貿易型でないインド製品の輸出も堅調である。2008年には、ジェネリック医薬品を主体とする医薬品製剤が米国の対インド輸入の上位3位になったこと（前年比64.1%増）、EUの対インド輸入の6番目が乗用車（前年比86.4%増）となったこと。衣類も世界貿易市場のシェアを高めていることなど。

一方、2008年10月以降、インドの輸出は前年同月比でマイナスとなり、国際金融危機に端を発した世界同時不況的な影響を受けている。

### 第2章 インドの対内直接投資

インドは1991年の経済の伸び悩みを契機に政策転換したが、直接投資が大きく増加したのは2001年以降である。特に、対内直接投資は2005年の76億ドルから2006年の197億ドル、2007年の230億ドルと増加し、2008年は前年を上回ると推測されている。対外直接投資は対内直接投資を上回る急増である。2005年の約30億ドルから2006年の128億ドル、2007年の136億ドルとなっている。

対内直接投資の増加は、インド国内経済の高い成長が背景にある。一方、対外直接投資の増加は、インド企業による旺盛なM&Aによる。

### 第3章 国際金融危機後のインド経済

2008年秋以降の国際金融危機、その後の各国経済の景気不安にインド経済も直面している。2009年3月時点における主要な国際機関の景気見通しによれば、インド経済も過去数年の高い成長を維持することができず成長率は低下する。ただし、中国より下回るが他の新興国より高めの水準を維持する、など、比較的「落ち込み」は軽微だとする見方が有力である。

その理由として、対外依存度が他の新興国やアジア諸国に比べ相対的に低く世界経済の影響を受けにくい構造であること、インド国内経済が比較的堅調であること、などがあげられる。また、インドは低価格品の生産・消費市場としての魅力があり、それらの供給国となる可能性があることも有利と言える。

### 参考 統計

インドの貿易・投資に加えマクロ経済指標の長期時系列データを整備した。